



僕は茨城県水戸市の生まれですが、子どもの頃は暇さえあれば架空地図ばかり描いていました。たとえば水戸市が人口百数十万の大都市になって、区政が敷かれ、環状線が走り、地下鉄網もあるという地図です。

測量というのはよくわかりませんが、地図とか地理は今でもすごく好きだし、もし音楽をやっていなかったら、地理学者になりたいと今でも思うぐらい。でも、もう実現しないから、部屋を塵(チリ)だらけにしています。(笑)

もともと僕は演劇の音楽が多いんですよ。今まで470作品をやっているのでしょうか。というのは僕はすごく演劇好きで、高校生の頃は音楽会に行くよりも芝居を見に行くほうが多かった。大学時代のクラブ活動も演劇部でした。結局、役者はやらずじまい。でも、実は音楽家になってから、少し役者をやらせてもらったりするようになりました。香川(照之)君とはテレビドラマで共演しているんですよ。

長く映画の仕事をしていますが、木村大作さんとの接点はこれまでなかった。黒澤(明)さんの作品でも、『影武者』からなので重ならなかった。映画の仕事をしていて、木村大作の名を知らないわけがない。人物にも興味があり、一緒に仕事をしてみたかった人です。監督というのは、だいたい面白い人たちですよ。黒澤さんとは映画『夢』の時にケンカしたことがあります。雪女の場面の4分ぐらいの曲を書いてくれという。結局それがすごい吹雪の場面で、音楽なんか全然聞こえない。最初と最後に少し聞こえるくらいなんで怒ったんですよ。そうしたら黒澤さんは、「いや、裏で鳴っているんだ」と(笑)

今回の仕事は、木村監督は僕にオリジナルを書かせないので申し訳ないと思ったりしいんですが、僕はまったくそれは考えなかった。木村さんが「バロックを主体としたい」と言った意図、山の崇高さとか神秘さそういう精神的な受け止め方と、バッハのオルガン曲とが結びつく感性には非常に共感できて、全く違和感がなかった。新しく編曲していくことは楽しい仕事でした。なかには難しい注文で、バイオリンソロをチェロにしたり、前後の間を抜いたり、繰り返したり、いろいろ細かい作業をやりました。曲のテンポも演奏会での演奏とはまったく違うため、僕が仙台フィルの指揮をしました。

そういうことで音楽も非常にうまくいったと思います。木村さんの映画の美しさは当然で、息を吞みますし、素晴らしい映画になりましたよね。

池辺晋一郎 いけべしんいちろう (音楽監督)

作曲家。1943年生まれ。水戸市出身。東京芸術大学大学院修了。オペラ、オーケストラ作品等の他、演劇、映画、テレビドラマ音楽も多く手がける。映画では『影武者』『夢』『復讐するは我にあり』『楢山節考』『ひめゆりの塔』。テレビドラマでは『黄金の日』『独眼竜正宗』『元禄繚乱』など。2004年紫綬褒章受章。